

2014年2月9日 主日礼拝

説教 みことばの光

詩篇 119 篇 105-112 節

【トローラー】

聖書の中で1章あるいは1篇としてはもっとも長いのが119篇。この詩篇の長さは、「トローラー」（神さまの教え）の恵みをじっくりと教えるため。112節では、「おきて」と訳されていることばです。

いつも語ることですが、イスラエルにトローラーの中心である十戒が与えられたのはシナイ山。まず出エジプト、そしてシナイ山。この順番は大切。イスラエルという泥の中に転がって、たがいにつかみ合いをしていたような民を、神さまが身をかがめてまず救ってくださいました。そして、「さあこれからは私といっしょに歩くんだよ」と言って、神さまとともに歩く歩き方を教えてくださいました。

詩篇119篇はそのトローラーをしつこいほどに語り続けます。歩き方というのは、頭でわかってはだめです。手取り足取り教えてもらって、歩いてみて、失敗して、また歩いて、ものに成っていきます。歩こうとしているうちに必要な筋肉がだんだん鍛えられて、そして歩けるようになってくる。119篇はそんなふうじっくりとトローラーの恵みを教える。トローラーの

恵みは神さまご自身を知る恵みです。

「あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です」（105節）。トローラーの恵みは私たちの足もとを照らす。神さまの恵みが照らして、私たちが神さまとともに歩くことを助けます。何度も失敗する私たちだけども、神さまは私たちを投げ出さないで、私たちの足もとを照らし続けてくださるのです。

【失敗論】

今日のヌンの段落には、ピンチにある信仰者が描かれています。「私はひどく悩んでいます。【主】よ。みことばのとおり私を生かしてください」（107節）とピンチの中にある信仰者が、神さまに助けを求めているのです。みことばにまじないのような力があるわけではありません。そうではなくて、神さまのみ言葉は、神さまがどのようなお方であるかを思い出させるのです。神さまの愛とあわれみを。

失敗するとき、私たちはうちひしがれてしまったり、いなおって他の人との関係を損なってしまうピンチにあります。そのとき、聖書は神さまのトローラーに留まれと教えます。神さまがいかなるお方を思い出せと言うのです。そして神さまとの正対する関係に居続けよと。そうするなら、私たちは失敗してもいいんだ

と自分を赦すことが出来ます。失敗よりも大きい神さま、失敗の結果もコントロールすることが出来る神さまにより頼むことができます。

【カーナビ】

みことばは、地図というよりはカーナビに似ていると言えます。道をまちがえたとき、カーナビはただちに計算をやり直して、新しい道順を教えます。神さまは私たちが失敗するとき、そこで途方にくれるようなお方ではありません。ピンチの中で、そのピンチを逆手にとって、私たちには思いもよらない解決をあたえるこの神さまを信頼するのです。いつもとちがう道であっても、この神さまとともに大胆に歩み出すのです。

【心を傾けて】

「私は、あなたのおきてを行うことに、心を傾けます」（112節）。詩人は、神さまへの愛を告白します。私たちは神さまと仲間との交わりの中で、ガラスのように壊れやすい自尊心や気むずかしさから解き放たれます。そしてピンチの中でも、なめし革のように、しなやかで強い愛の持ち主へとされていくのです。時間がかかります。けれども、神さまと正対する私たちを神さまがそのように仕上げてくださいます。